

家庭科の授業改善報告

◇ 研究授業

日時 令和4年6月28日（火）5限

対象 2年4組（45名）

授業者 渡辺 タ子

科目 家庭基礎

単元 自立して生きる 2章 楽しく安全に食べる

学習目標 環境や人々の暮らしに配慮した食品選択の視点を持つ。【思・判・表】

- 学習活動
- ・食品パッケージを持参し、食品表示等の情報を読み取りその内容を理解する。
 - ・環境や人権に配慮した商品やマークを確認し、買い物の背景にある児童労働や環境破壊の問題が自分たちの消費行動とどう関連しているのか考える。
 - ・消費行動が企業や社会に与える影響を知り、価格や味に惑わされず、商品を選択する力を身に付ける。



【 授業風景 】

自分の食品の選び方を振り返る	
食品	視点
価格	自分のため 自分基準
味	環境 地域・地球環境
内容量	人々の暮らし すべての人
期限	消費者+生産者
見た目	

【 授業スライド 】

◇ 研究授業の成果と今後の課題

【成果】

授業を通して、食品の生産・流通・販売の過程などの背景を知り、自分の食生活のあり方が持続可能な社会の実現につながっていることを理解することができた。

生徒感想: 私たちの消費行動は世界中の人とつながっていることを知り、自分の選択が生産者や地域、社会にどう影響するのか、よく考えて商品を選びたい。これからは自分基準のものを選びだけではなく、生産者の視点を取り入れていきたい。

『食』に求められる多様な価値観の理解と豊かな食生活の実現をめざして」をテーマとし学習を進めてきた。家庭クラブ主催の米粉料理コンクールでは、「地産地消」、「生活スタイルにあわせた簡単米粉調理」、「洞戸産キウイ使用の『ほらタレ』PRレシピ」等、各々の食を大切に思う気持ちや価値観が反映された作品が寄せられた。

【課題】

持続可能性については、食生活分野に限らず他の単元でも、「エシカル消費」の視点で繰り返し学ぶことが有効だと感じている。

来年度は、衣生活分野でも大量生産・大量消費・大量廃棄の実態について取り上げ、過酷な労働環境や地球環境への影響、古着が生み出す弊害、綿栽培における環境問題・人権問題に関連させながら、継続的に学習させていきたい。食生活分野「食品選択」におけるエシカル消費の学習内容が生徒の中にどのように根付いているのか確認するとともに、衣服の購入から処分するまでの過程における環境負荷やファストファッションにも触れ、商品との向き合い方や「買わない」という選択肢もあること、ものを大切に使用し、ごみを出さないというリデュースの実践など衣生活分野に関する持続可能性について授業実践をしていきたい。